桜並木学園並木中学校便り

令和8年度

並木クオリティ

10月号

自主・創造・協和

令和6年10月19日

実り大きい１学期終了、そして、さらなる飛躍の２学期へ

職員室より

２学期が始まりました。１学期末は、７・８年生の新人戦での活躍、８年生の職場体験学習、笑撃祭でのパフォーマンスなど、様々な並木中生の底力を見させてもらいました。

新人戦では、９学年の先輩方の思いを引き継いた新チームの、初々しい初戦が展開されました。新人戦は、総体に向けての課題発見、分析、新たな目標設定…と新チームが集団として動き出すための重要な試合となりました。さて、どのようにこれからの練習メニューを考え、チームの輪を強固にしていくか、職員一同見守っていきたいと思います。一方、２学期は１年間の学習を総括する場面がどの学年にもあります。後から悔いを残さないよう、「今」を大切にしてほしいと思います。

～新人戦壮行会および市新人戦の様子～























１学期末は、たくさんの体験活動や交流がありました。７年生の「いのちの講演会」では、交通事故でお子様を亡くした方の講演会に参加しました。代表生徒が、直接対談をする時間を設けていただき、交通事故を起こさない社会づくりについて、生徒の立場から話し合うことができました。「車は、命の間をすり抜ける鉄の凶器になりうる」という話を受け、７年生なりに「自分が車を運転するときには、車が鉄の凶器を動かしていることを忘れないようにしたい」「歩行者としても自転車通学をする立場としても十分に気を付けて地域のみんなの安全が守れるようにしたい」など、「いのち」「安全」の大切さを再認識することができました。貴重な講演会となりました。



８年生は、パラオリンピックのゴールボールの山口凌河選手を招いた出前授業を行いました。視覚障害のある人とそうでない人との気持ちよいコミュニケーションについて講話をききました。また、目隠しをした相手に正確に伝えることの難しさを実体験から考えさせられました。ゴールボール体験では、山口選手相手におおいに盛り上がりました。山口選手から並木中生へ、温かく力強いメッセージをたくさんいただきました。その中でも、「ありのままでいい」という言葉に多くの生徒が励まされました。また、山口選手の前向きでパワフルな生き方に勇気をいただきました。

９年生は、地域の方との哲学対話を行いました。テーマは、「理想の放課後の過ごし方」です。現在、９年生は受検に向けて放課後を過ごす生徒が多いと思いますが、中には、７・８年生の立場から考えている生徒もいました。部活動の地域展開に向けて、部活動の動きが変わってきていることも踏まえて考えている生徒や、高校に入ってからの放課後について思いを馳せている生徒もいました。地域の方から、９年生の話合いの様子をみていただき、一緒に考えることができたことは大変貴重な時間となりました。



そして、並木まつりでは、並木祭り実行委員をはじめとする地域の皆様のお力添えで、吹奏楽部の演奏を皮切りに、８年生９年生、美術部が出店させていただきました。たくさんのお客様に囲まれて、あんなに生き生きのびのびと活躍する並木中生を見て心から嬉しいと思いました。この日までに、思い通りにいかないことや葛藤場面があったことでしょう。それでも、仲間と話し合い、折り合いをつけて、それぞれの役割を見いだし、あの並木まつりの貴重な時間を過ごすことができたことと思います。

中学校で同時開催した「クラフト＆アートフェスティバル」でも、並木中生の習字と絵画を披露しました。地域の方の手作り作品も合わせた展示もあり、たくさんの方に来校いただき、大盛況となりました。

どの生徒も、自分らしさを発揮した表現が随所にみられました。あらためて、来校していただいた講師の皆様や、地域の皆様、保護者様に感謝の気持ちでいっぱいです。また、並木中生の素晴らしいところは、関わる人や地域の皆様への感謝の気持ちを行動に表すことです。それは、挨拶や奉仕の行動として表れており、驚かされます。AI では手に入れることのできない「人とのつながり」を学び、「実感を伴う経験ができること」ができるこの地域を誇りにしてほしいと思います。











11 月号は、科学部のロボコン大会出場についてお知らせします。